

診療科目：病理診断科

カテゴリー：選択科

一般目標：病理標本がどのように作製され、病理診断がどのように行われ、診断結果がどのように臨床の場で解釈され、治療、予後の判定等に利用されているかを知ることは重要である。病理診断科の研修では、病理組織診断、細胞診および病理解剖の実際を経験し、臨床医に求められる診断病理学の基礎を修得することを目標とする。

【個別目標】

1. 病理検体の提出から、標本作製、診断、報告までの過程を理解する。
2. 代表的な外科切除材料の固定法、切り出し法、癌取扱い規約に準じた診断法を修得する。
3. 表的な生検、及び細胞診材料を用いて、悪性所見の有無、炎症所見の取り方、グループ（クラス）分類、菌体の同定法などを修得する。
4. 代表的な特殊検査（免疫組織化学、分子病理学的検査）法の原理、目的に応じた検体の取り扱い（固定方法とその限界）を理解する。
5. 病理解剖を通じて、肉眼的診断法の基礎を習得し、病理解剖の医療に於ける意義を理解する。
6. 診断病理学が臨床やチーム医療に担う役割を理解する。

【指導原則・方法】

1. 実際の標本作製過程を見学し、希望があれば、包埋、薄切などを経験して頂く。病理診断ないし病理解剖依頼書の書式、必要記載項目を確認する。
2. 病理専門医の指導のもと、代表的な外科手術材料の肉眼所見の記載、病理組織検索を行なう部位の決定と切出しを行い、作製された病理組織標本を検鏡して、病理診断レポートを作成する。
3. 代表的な生検材料を指導医とともに鏡検し、病理診断レポートを作成する。代表的な細胞診標本を指導医・細胞検査士とともに閲覧し、病理組織所見との対比、細胞診の役割を理解する。
4. 代表的な特殊検査（免疫組織化学、分子病理学的検査）法の実際を見学し、原理と評価方法を理解し、病理診断レポートを作成する。
5. 病理解剖の補助を行い、肉眼診断法の基礎を修得する。

6. 診断病理学の臨床やチーム医療に担う役割を理解するために、臨床各科とのカンファレンス、カンサーボード、CPC などに、積極的に参加して頂く。病理学的所見を呈示することも考慮する。
7. 希望があれば、今までの当科のアーカイブから、興味ある症例の標本をまとめて鏡検して頂き、疾患に関する理解を深めて頂く。